

作るはじめは粳米にて製りしが、やがてかくかへたり、

〔江戸名物詩初編〕長命寺櫻餅向島

職高長命寺邊家、下戸争買三月頃、此節業平吾妻遊、不吟都鳥吟櫻餅、

卵餅

〔本朝食鑑二〕餅

附錄○中 粳米粉餅〔中略〕有志、古、佐餅之名、志、古者、如花、蝶形、如、芋

〔和漢三才圖會百五〕餅

一種形作笹葉者名笹餅、如鳥卵者名卵餅、皆裹餡、或以梔子汁染黃色、以紅花汁蘇芳汁染紅色、近頃作數品形色、

〔料理物語菓子〕さ、餅 うるの米上白にして、よくこにはたき、三段にこをとる也、一番はざつと

はたき、先ふるひ、そのこはのけ申候、二番めによくはたき、こまかにふるひ候、扱水にてこね、ちいさく玉にして、なべに入、にる、ふきあがりて、又しづむまでゆで候、あげ候て、うすにてよくつきて、色々にちぎる、黄にはくちなし、青はるもぎの汁入よし、青大豆のこ口傳在之、柚の葉、

珠光餅

〔書言字考節用集六〕服食〔シユクワウモチ〕珠光餅今世茶會所用、蓋珠光南都稱名寺僧也、嗜茶式立、花善畫、東山殿有恩遇、使之遺俗、住洛醒井邊云々、

アコヤ餅

〔類聚名物考飲食二〕あこや餅

利久翁百會の茶の菓子に出せり、今云いたゞきといふ物、伊勢の國にては、今もあこや餅といふよし、黒露いへり、今案に、あこや具に似たればいふにや、

〔下養狂歌集下〕一そのころ世に大坂やきのむさうもちといふくわしはやりければ、ある人それをふるまひて、これにうたよめと有ければ、

名にしおもふ大坂焼のむさうもち人にしひられて喰よしもがな

燒餅
鶉餅
大福餅

ムサウ餅